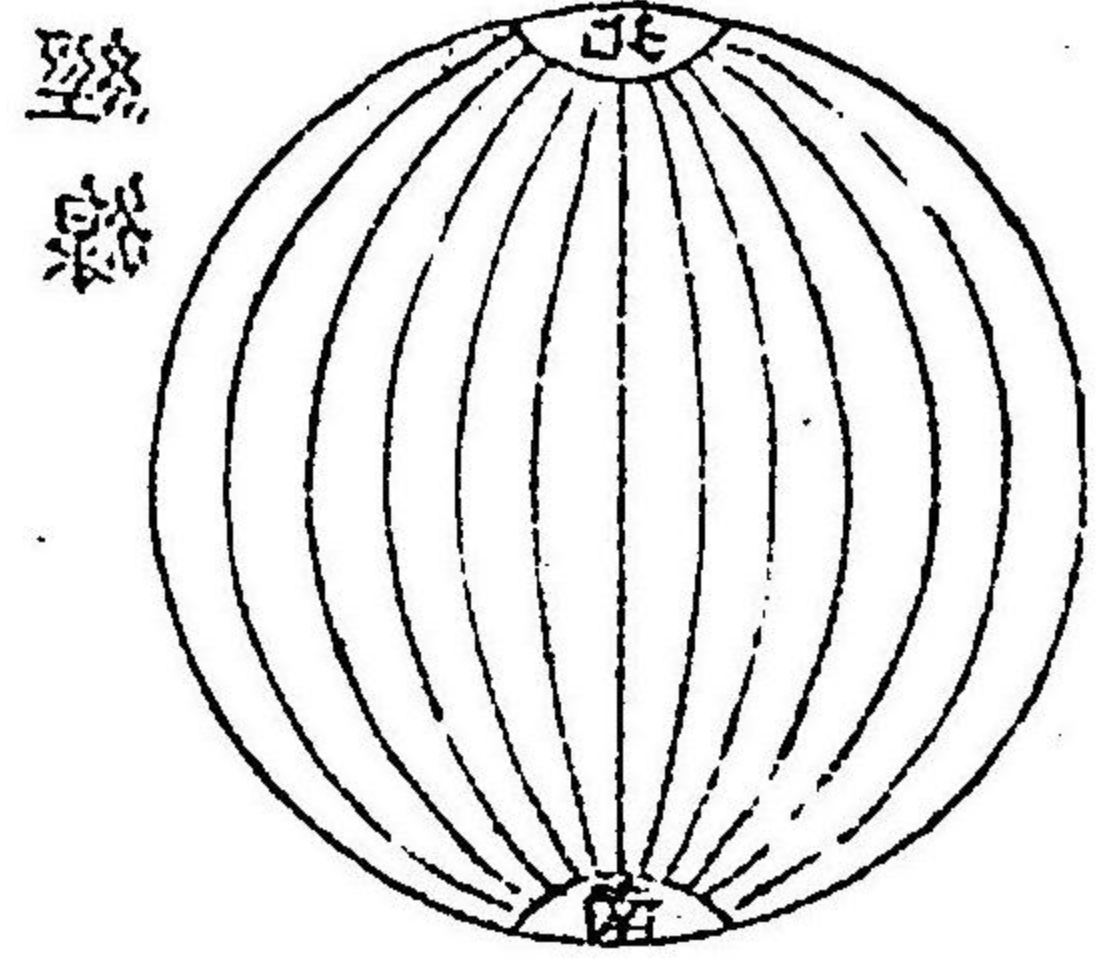
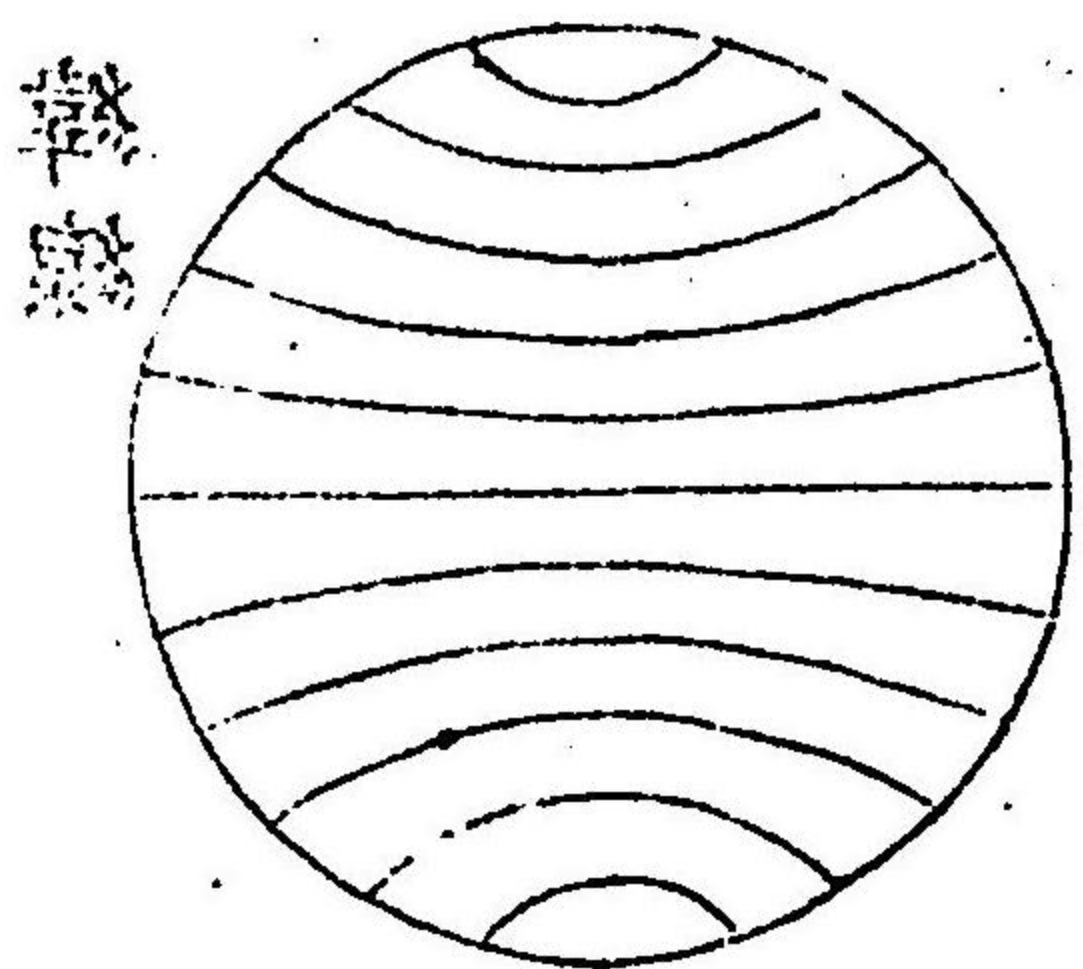


結言

余曩著述地理訓系ハ極メテ簡
易ナリトシ只各洲ノ概畧ヲ挙ゲ
重要初歩ノ階梯トナシタルニ望ミ
可今開明ノ際大人ニシテ之ヲ讀ム者
亦少シ書肆大ニ布利ヲ得リト因
テ之ニ一篇ヲ著シ以テ其遺漏ヲ補フ
ニト欲シ未人著述地理史彙ニ依テ

東 半 球

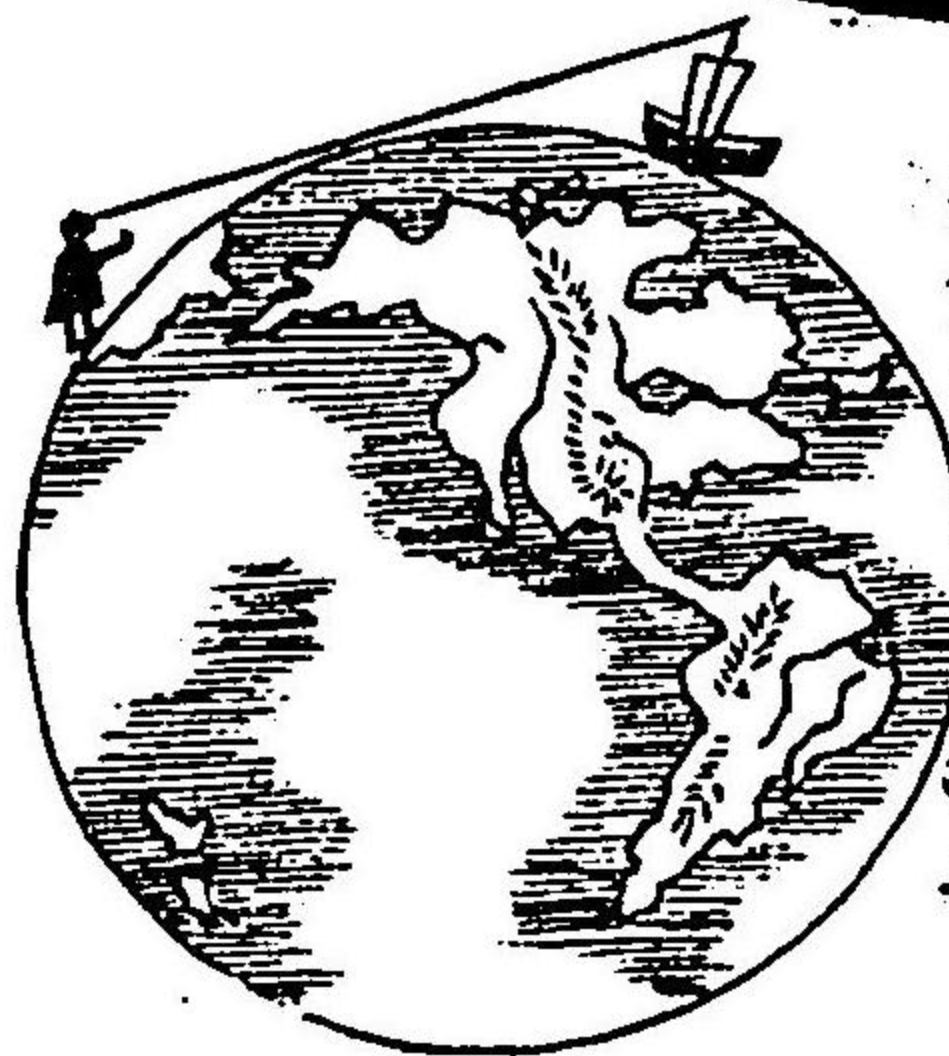


抄譯之以示其所以作此書始
 於地理之端論之經之地理之大概
 記之然其論國之沿革等事其言
 由來極其煩長此如羊一冊多能
 厚不而之非不有者其說詳細十九
 六先指既其史素了就其凡之
 西村哲方誌

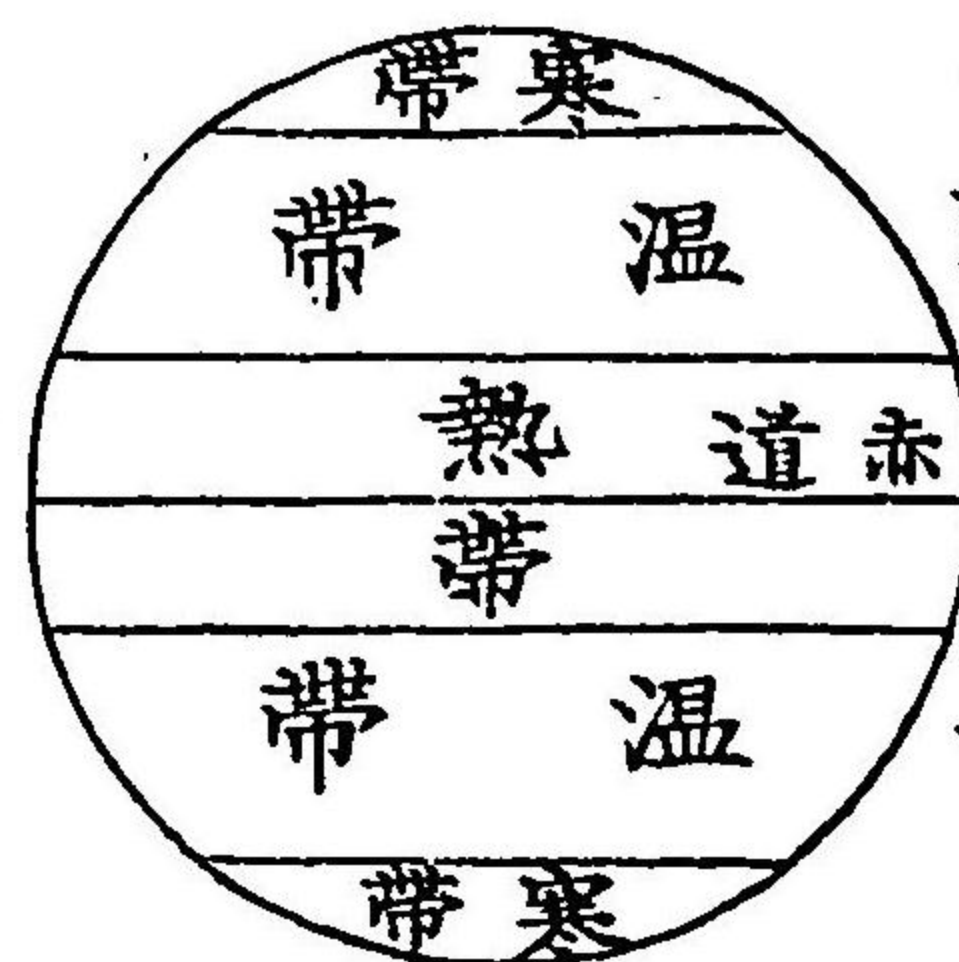
球 半 西



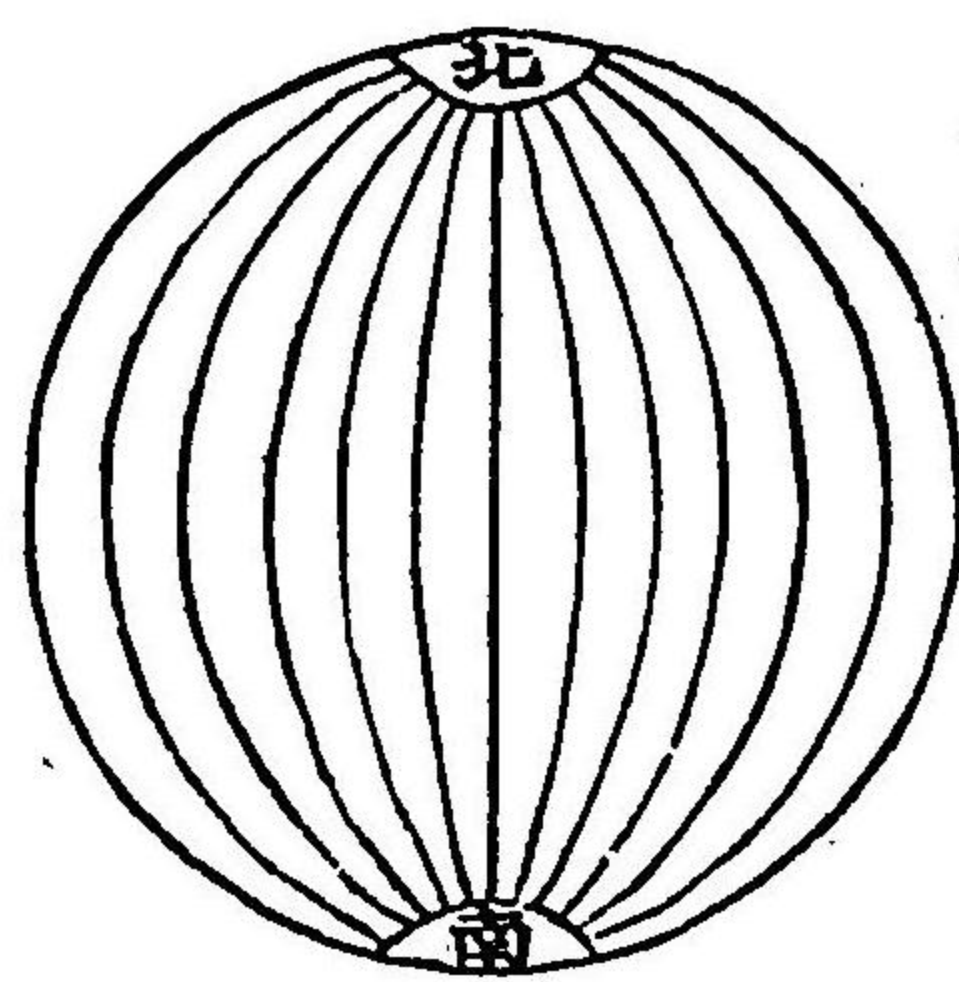
球 半 東



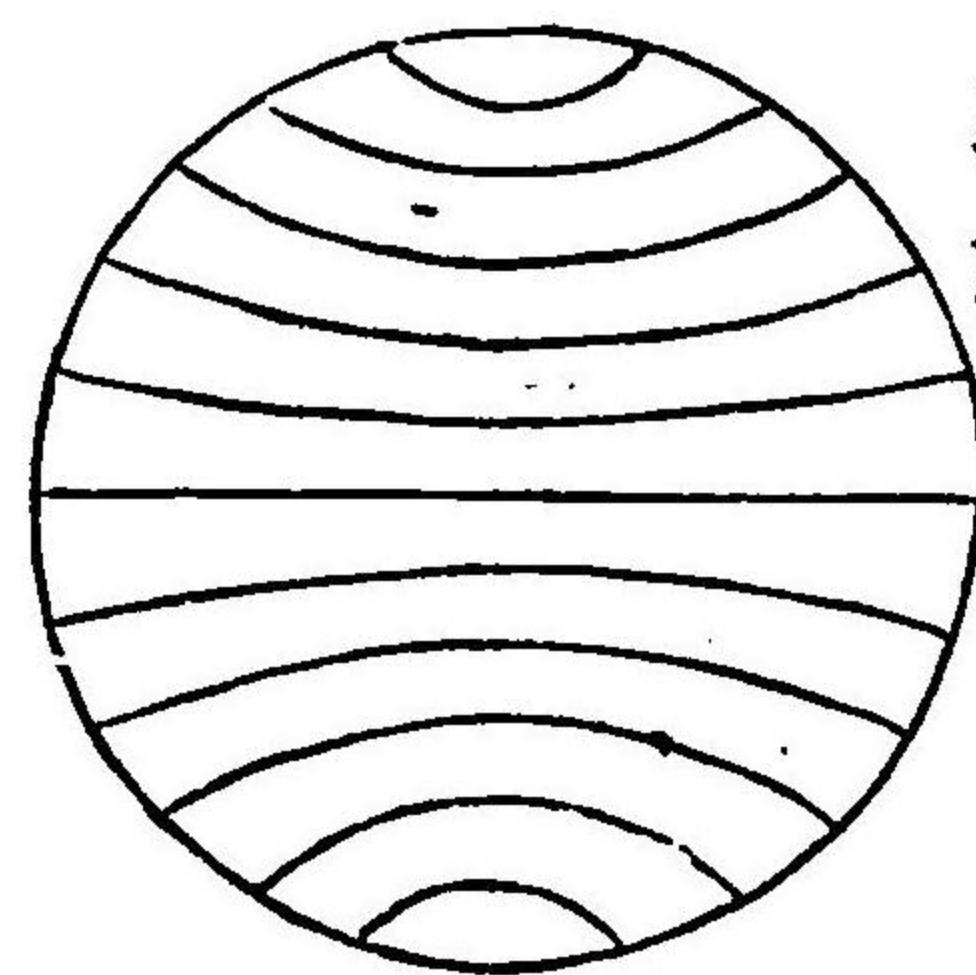
地球圓體憑據面



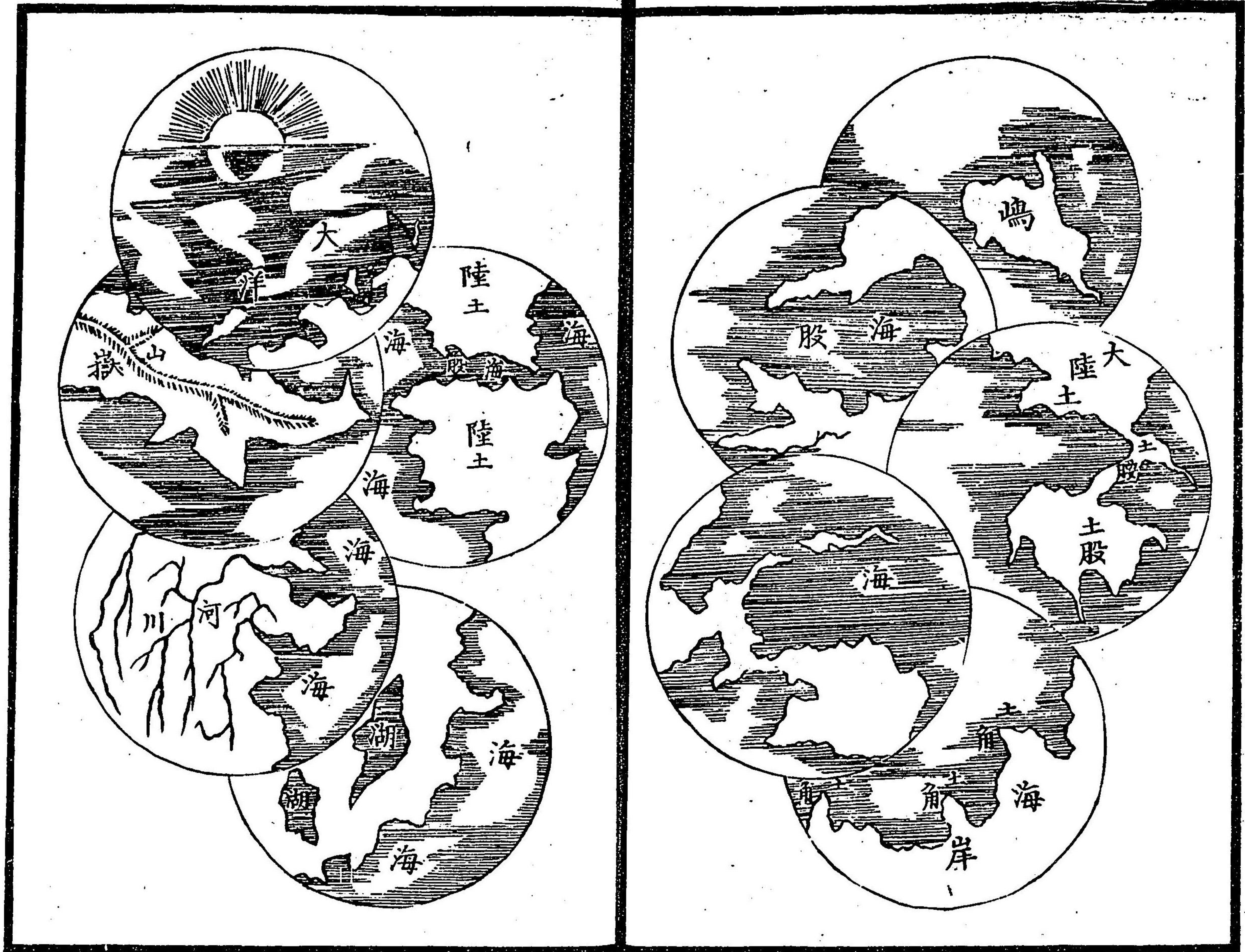
赤道及五帶圖



經線



緯線





萬國地理訓蒙二編上

地球畧論

西村恒方譯述

夫れ此世界を地球と云て衆惑星中の一
 たり其形状圓一と雖も實を正圓なる不
 非を兩極少しく平坦ふして其周圍九二
 萬五千里直徑殆八千里不及なり
 地球を二つの運動有り自己の軸を廻り

て運轉するを自轉と云ふ大陽を旋りて
 運行するを公轉と云ふ則自轉ハ一昼夜
 を為し公轉ハ一年を以て譬へば自轉ハ
 陀螺の自ら廻り公轉と其の廻りやごと
 大圈を画く不似たり故に地球自轉をな
 す方つて南北の中心を軸とするや猶
 陀螺の軸を心とし旋るが如く不して又
 其大陽を周環するの間月輪亦地球を周

りつゝ共不太陽を周環するなり
 地圖に點線と記するハ地理を學ぶに解し易
 かりしめ為たり先つ北方を上と右を東
 とし左を西と下底を以て南とし其南北
 兩極より半分の所東西に一直線を引き
 之を赤道と名づく此線を三百六十二分
 づ毎分各六十九里半之を一度と云ふ又赤道
 より兩極の間二十三度半の所一つの横線を

引く即ち巨蠟宮の田端線白羊宮の田端線と名く此二線の間を熱帯と云ふ黄道とハ大陽全年天空を經歷する行道なり尚詳細ハ前番を見て知るべし

空氣の事

空氣ハ極めて淡薄なる二種の氣ニテ地球の全部を包擽して地面より其高さ殆ど四十五里ニ至り能く地上動植物の

生を保たりむ又此氣地球の運轉ニ隨つて常ニ流動すと雖も必しも此運轉のニ隨はず又能く自ら移轉を此流動を風と云ふ其流るゝ向ニ從て東風西風等の名を命す又其速力の剛柔ニ從て輕風和風烈風暴風颶風と云ふ颶風ハ日本國の周廻及び亞細亞の西岸ニ多く流行す

海陸の分別

地上水陸の多少を概算せば水ハ四分の三居り陸ハ四分の一居り其渺茫たる水を大洋と名づけ之を次くを海と称し其他灣、江、港、湖、海峡、河川等陸と其大小位置及び自然の形勢不随て各々其名を異ふも即大陸、地、峽、島、半島、岬、山、岡、平地、谷等是なり

世界人種の論

世界の人民を概算して十臆とす此人民を五種に分ち即ち白種人種、黄色人種、黒色人種、棕色人種、赤色人種なり
白種人種ハ世界中最羨ノ人種ふして歐羅巴亞米利加多
黄色人種ハ支那及日本ハ産して其色黄なり
黒色人種ハ亞非利加人ふして之を子グロ種ト云ふ則黒奴ナリ
棕色人種ハ

太平洋ノ諸島は於ける住民を云ふ赤色人ハ南北亞米利加に住めざる土人を云ふなり

亞米利加

此洲を二分して南北とす全世界陸地十分ノ三を有リダリーンパナマの地峽を以て南北相連續せり季候ハ寒暖一ならずと雖も北部ハ寒氣極めず甚く他國

の比ハ非ず所産植物諸金玉石不富みて政教寛大なり

人民凡七千百万其内四千七百万人ハ白哲人七百万人ハ土人ふして七百万人ハ黑人其他ヲ雜種とせり

亞米利加を西大陸と稱して則今を去る四百年前伊太利ノ農夫コロムバスなる者此國ヲ發見せしより歐羅巴人西ハ大

陸あるを知りて、以て此地を新世界と云ふ爰に其初を尋る不

我もと此國の発見者ゴロムビスリ者

を元歐羅巴の伊太利國ゼノアの産農夫

の子たり父ハ貧ぢれども其子を教る勉

めて讀書筆算の諸術を以てせり然る不

コロムビス少時既ニ航海の術を學び幾

許の船旅を為し遂に地の圓形なるを察

し西に航がバ必一地に達すべきを想定

せり依て此行を果さんと欲し諸國の君

主に透説せしむると其言容られを徒ら

不日を送りしが試みて止んば遺憾なり

と一再び意を決し是班牙の女王に謁し

説くは西方必ず陸地あるを以ては王信

ぜざりしが遂に此行を助くるに大船三

艘水夫九十人を以ては依て千四百九十

二年第八月三日は是班牙を開帆せり時
 是コロムブス年五十七此航海の艱難を
 筆紙能盡す能らんコロムブスの誠心
 神明の冥助を得て第十月十二日始めて
 一地を發見せり則初度發見ノ地ハ大西
 洋の内バハマ島にて北亞米利加の間
 在りコロムブスハ此地を「サンサルバ
 ドル」と名づく夫より諸國を發見せり

が遂ふ千五百六年に當り身窮困の中
 没せり
 コロムブス此地を發見の後アメリカス
 と云る人新地を尋ねしが歐羅巴に歸り
 後書を著して偽つたコロムブスに先
 だち亞米利加の大陸に達せりと流言せ
 故人々遂ふ此西大陸に此人の名を負
 せて亞米利加と唱え來り

北亞米利加

北亞米利加を西半球の北部に位置する一大陸にして大西洋よりパナマの地峡に至る迄其距離五千里東西の幅負二千六百哩乃至三千二百里不及べり地面方里の數ハ八百四万三千なり此地諸金寶石類不富て諸山之金屬を含み西部ハ土地豊饒墨西哥ハ多く金銀銅錫を産し合衆

國ハ金鉛鉄石炭不富り此國産する動物の内荒地ハ鼠色水牛大鹿牛羊等多く鳥類亦多し白露國鶏ハ元來亞國の所産なれどもコロムブス此國を發見せし後英人ジョンカボットと云ふ人トルキエと云へる島より是を持渡りしなり

魯西亞亞米利加

魯西亞亞米利加ハ北亞國の北西に在り

てベフリニ海峡を以て亜西亜と分割し
 貌利太仁亜國より西緯百四十一度小
 在り季候と殊小寒く土地不毛ふて住
 民多くハ印度人及びエスクヒモークス
 あり海岸岩石多く高低一ち多ク峻山中
 小シツトエリアスと云ふ噴火山あり此
 海岸ノ諸品製造所を設く最盛なるハニ
 ウアルチヤングルふて此地にて火器

飾珠煙草等を制す毛皮ハ此地の名産
 あり
 アラスカの半島より西方ニ遠く隔りて
 アリユチエンと云ふ島あり一名孤島と
 云ふ此住民ハ地下ノ家を營ミ一穴毎小
 五十人或ハ百五十人群居一其内各小室
 を設け以て雨露を凌ぐ其風俗極め了野
 鄙なり

此國元來魯西亞の所領より近年合衆國ノ所轄とナレリ

太仁西亞國

太仁西亞をグリーンランドイストラシドの二地の總稱にして北緯六十度の北に在り季候寒く地味惡しグリーンランドを一大島と云ふ其北端ハ未だ詳ニ探知し未だ人種ハ則

エスクイモークス類にして常ニ魚類を食し獸皮を衣ふ

宗昔ハモラビヤの法教師耶蘇宗を弘免

より終ニ是ニ寄依せり此地ハ人口僅ふして政を執る者ハ皆歐羅巴人なり

イストラシドを山多き島にしてグリーンランドより百四十里隔りて大西洋の内不在り此國火山多くガイセルト名くら

温泉あり其最盛なる者ハ温泉噴出の高
 さ七十尺より二百尺不及べり首府をリ
 ケアビクと云ふ
 イスラントハ其國の法ハ依り人民一般
 小神佛を信ずれとと他國の比ハ非を又
 六百年間曾了戦を交へりこと無一因て
 兵を徴せりこと未だ曾て有ずと云ふ

貌利太尼亞亞國

貌利太尼亞亞國ハ合衆國の北部ニ在る
 魯細亞亞國太仁西亞國の地を除き其他
 全部の總稱ありて北亞米利加三令の一
 以上を有せり是を分てハ則ニウブリチ
 エンブリチースコロムビヤバンコーブ
 ル島カナダニウブランクスウイツクフリ
 ンスエドワルド島ノバスコチヤケーブ
 プレトニ島ニウフランドランド及ビラ

グラードル島是なり此内開明不進める
 國ハ僅ハ十分の一のニ季候を極めて寒
 く就中北部ハ全年寒氣絶ると無く南
 部と虽とも半年間ハ地上氷雪を以て蓋
 へり然まとも東部より西部ハ稍温暖か
 り此地北部ハ於ては白熊牛及ハ大鹿其
 外獸類多く印度人常ハ之を獵して食ハ
 供ハ毛皮ハ以て衣を作り或ハ種々の細

エを為し以て市不送れり
 貌利大尼亞亞國ハ每州ニ人民撰んで政
 治府を設く又コロウン官名命して鎮臺及
 ヒ領事を備ふ然れとも全國皆加拿太の
 首府不在る総政府ハ屬すカナダハ元佛
 國の侵地かれとも英國と兵を交へ佛國
 利なくして遂ハ千七百五十九年終ハ英
 の所領となれり

新貌利太尼亞

新貌利太尼亞とカナダ及合衆國の北部
 小位する國ふいて貌利太尼亞亞國四
 の三を有せり此地ハドソンの灣を以て
 ニ分ちたる大ひちる平地ふいて季候甚
 寒く冬季殊小長
 ブリチースコロムビヤハ太平洋及
 ツキー山脉の間小在りて合衆國より

ムブソン川迄廣がりる一大國なり季
 候ハ適宜ホーエコロムビヤ及ヒ
 ルと云ふ大河あり地森林多
 ブアンコールブル島ハブリチースコロム
 ビヤの西方大平洋小在りて
 灣を以て分割せり此國の北部ハ石炭
 富めり

西カナダ

西加拿太ハラツタワ河よりサペリヲル
 レーキ湖小連続せり季候適宜小して人
 の健康小宜し夏季ハ最清凉冬季ハ東加
 拿太より稍寒氣薄し産物ハ燕麥小麦蜀
 黍麻等なり
 此地小メツプルと云へる樹有り是より
 多く砂糖を製せり
 西加拿太ハニヤガラと云へる川有り其

源ハエリーの湖よりラントリオ川小流
 れ終ハカナタ小至る此大なる瀧の高十
 十六丈絶景の地なり
 ヲツタワと云へる地ハ千八百五十八年
 小額利太尼亞亞國の首府を置ハリ此地
 の人口九一万人
 東加拿太
 東加拿太ハ西加拿太の北西小在りてシ

トローレンズ川の兩岸は廣がりて北部
 は不毛にして寒氣強く南部は季候稍宜
 く土地少く豊饒なり此國の人民四分の
 三は佛人なる故常に佛語を用ゆ物産は
 小麦蜀黍其他穀物材木花卉類毛皮等あり
 クイベツキの街市をミットローレンス
 川の邊りお位を其半の平地にして半

嶮崖は在り其絶壁危嶮にして高さ三百
 五十フイートお及べり故お之を二分
 て上街下街と唱へり
 ノバスコチヤハ新フランスウイックの東
 南は在りて千七百十年より佛國の所領
 となりしが千七百十三年お復之を英國
 へ譲れり
 此地は半島にして長さ二百八十里幅五十里

乃至百里小及べり其海岸ハ不毛なれども内部
 及北部ハ稍地味肥るり所産ハ小麥馬鈴
 薯其他穀菜石炭石灰銅鉄を産す金ハ多
 産せず首府ハ南方ニ在り名セハリフェ
 ックスと云ふ此國ニ屬するニ個の小島
 をケープブレトンプリンスエドワルド
 と云ふ

新⁷ フロイドランド⁷ ハ大ひなる島なり

シットローレンス灣⁷ の河口ニ在りて
 リチース⁷ 亜米利加の東部ニ位す土地最
 不毛にして僅小材木を産す人民漁獵を
 以て産す鯨魚⁷ ハ此地の名産なりて諸
 國⁷ 小輸出也

合衆國

合衆國ハ共和政治にして三十七邦十部
 一郡を総括する北亞米利加中最貴重す

べき豊饒の地とス而して人民交易を勉むること他無比なり全國の廣き三百。一十方里なり

此國政治寛大自由を主とす故に人民漸次増加し智を磨き業を進む等亞國全國中双び無と云ふ

此國北ハ英亞米利加二域ヲ接し東ハ亞太蘭海ニ瀕し西ハ太平洋ニ臨み南ハ墨

西哥及び墨西哥灣の隣り地味善惡季候寒暖同くからばと虽とも河流多きを以て地ヲ湿し且他國物産輸送の便利を為せり千八百六十年の其賣消す所高を概算する小輸出す所所の物産の内小麦及穀物算す所ふ十臆「ビウセルス」一斗八升ニ當り綿ハ二拾臆「ポント」なり一斗云へり稍南部の僻して砂糖綿米麥煙草及數種

の菓物を産し中部北部及西部に於ては
 小麥蜀黍燕麥秣草林檎桃梨等を産す製
 造物ハ金巾毛布紙箋硝子皮革鉄炮及諸
 器械あり合衆國の人民ハ白人黒人及びインジヤ
 ンの三種をれども白人の數最も多く皆
 英國日耳曼阿爾蘭蘇格蘭の人種より
 野蠻なインジヤ人を千八百六十年
 概算せし數九二十九万五千四百八ふ

しる稍開化し進みインジヤ人の四万
 四千ありや
 合衆國の首府華盛頓ハ東海岸に在りて
 諸邦政官會盟の地なり其他著名なる都
 府多く東海に在り則ホストンニウヨ
 クヒラデルヒヤバルチモールチヤル
 ストン及サバニナ是なり
 此國宗教を偏定せざ政府人民の隨意に

任すも虽も多く信す所の者ハ耶蘇宗ヤソウシウなり

此國每邦多く大小の學校を設けしより書を讀み字を知らざる者ハ殆ど稀あり

馬伊根

マイ子マイコハ合衆國の北東に位する新英吉蘭シンエイキランの内最大の地なり季候寒く冬季殊長し此地森林に富むを以て良材を他國

小輸出し大利を得海岸に良港多くし漁獵甚だ盛なり

首府ハオীগスタスタオীগスタスタケン子ベツク川の岸に在り市街甚だ壯麗を極む

ポルトランドハーの大都會にしてカスコ港に在り交易隆盛の地なり

バンゴール及バス亦緊要なる都府なり
新ハムプサイル

新ハムプサイルハマ子ノ南西に隣り
て國中羨むる山脈は以て亞國の
ウイットゼラランドと名づく
此國海河の岸ハ犬牙鋸突ふり甚正列
かゝる人民ハ商賈を勉めホリて農業を
主と爲す只多く製造所を設けて諸器を産
ま白山脈の頂上ハ周年雪を戴く故に旅
客此山中を往來するは唯夏季のみなり

首府コンコルドハメルリマツク河の上
小在り

ベルモン

ベルモントハ新ハムプサイルの西方に
してコンチキウト河を畏とせり此
國の中央を通り多グリーン山脈横り
て其風景甚奇絶なり
土地豊饒ふりて人民主として耕作を勉

家畜を培養す季候甚寒冷なりとも健康を害せず

ウィノースキ河の邊りハ首府ありモントペリールと名く又此國の大都府をバルリントンと云ふ此地ハ高名きるベルモント大學校あり

マスサチウセツト
マスサチウセツトハニウハムプサイル

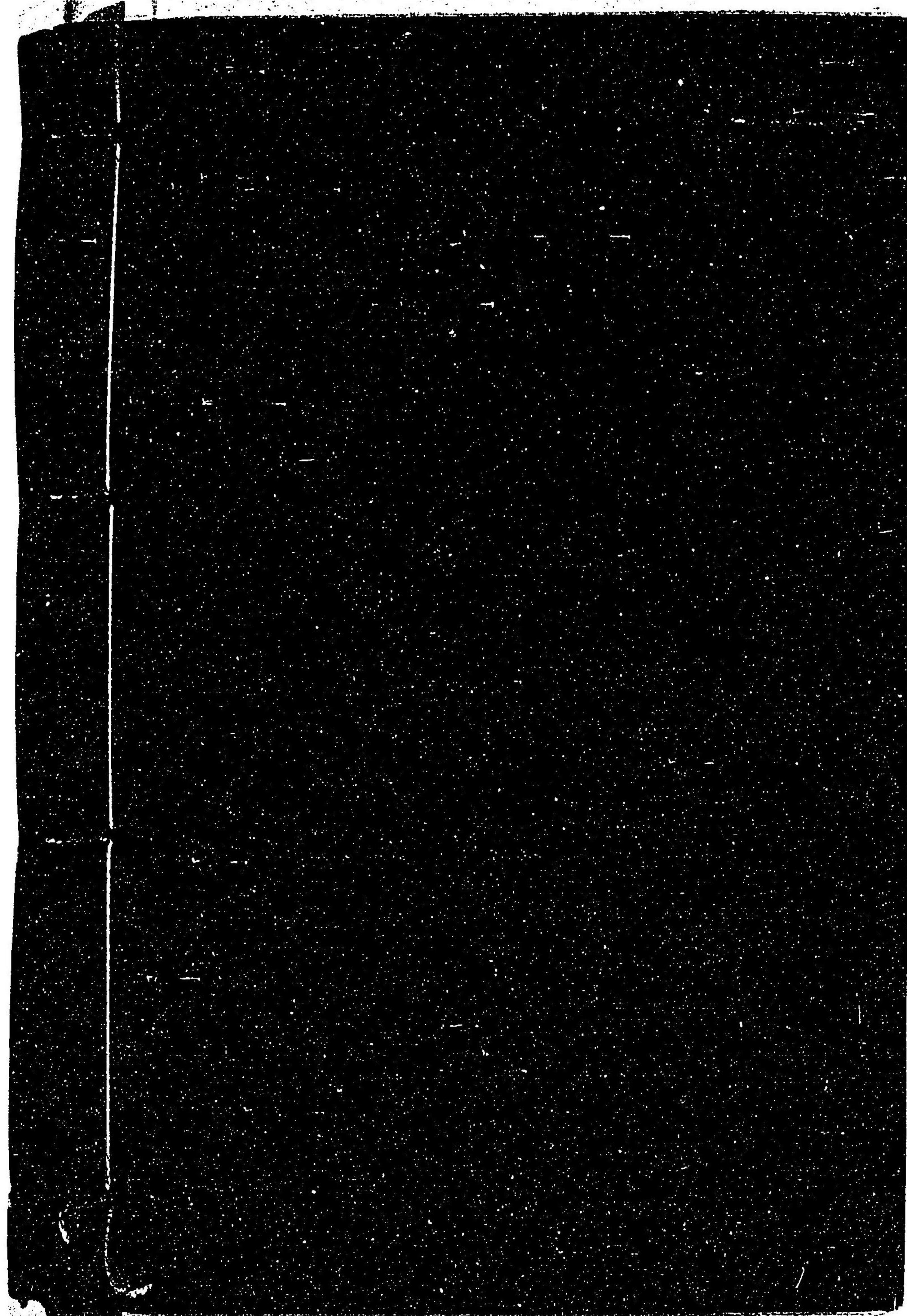
及びベルモントの南部ハ位新英吉蘭人多く此地ハ移住す千六百二十年来又パリタン人來り住せり

此國東部ハ平坦なりと雖も西部ハ山嶽多く中央を貫てコンチキエト河の流れあり此地多く製造所を設けり人民業ハ勵み能く乏ハ練熟すれハ名世界ハ高ハ首府ホストンハマスサチエツ

ト港ポ在り國教能く行レル人民力を耕
 作ス用スヨリ至リ又合衆國獨立前
 ハ此國屢レ争戰セキヤリニヤリ此地ハ大
 キ交易場一所あり其近傍「カムブリジ
 の地ハ「ハルベスト」の大學校あり
 此國革命初度の戦争ハ「レキシントン」及
 「コンコルド」の二地ハ於て最も烈クかり
 又「ホストン」の近傍ハ有名ナル「バンク

ル山あり此地ハ則チ亞國アフリカの兵英吉利イギリスの
 常備兵ト兵を交へ激戰數日ハ及び多ク
 所ありて今ハ「バンクル」山中貴族戰死ス乃
 墳墓累々多ク古戰場ナリ
 「ロウル」ウルセストル「スプリングフィールド」
 「ドサレム」及「ライヌ」ハ最緊要の都府あり
 此府の海岸ハ住める人民ハ常ハ漁獵ヲ
 以て産トス

萬國地理訓蒙二編上終



特32

211



館

函

架

號

大日本教育書館

第二室

一九

六

九

二

號

一

〇

架

二

函